

- 問1 鎌倉時代後半に、荘園領主や幕府の命令を無視して年貢を奪い、実力行使によって抵抗した集団を何という？
- 問2 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？
- 問3 鎌倉時代に、踊り念仏を広めて時宗を開いた僧侶は誰？
- 問4 浄土宗の教えが急激に広まったことを警戒した旧仏教勢力との対立により、法然が讃岐へ流された出来事を何という？
- 問5 鎌倉時代、朝廷やその有力な支援者たちが支配していた土地を何という？
- 問6 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問7 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
- 問8 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問9 鎌倉時代において、御恩と奉公を通じた将軍と御家人の結びつきによって成立した政治権力を何という？
- 問10 一遍が諸国を巡りながら、念仏を唱えて踊ることで教えを広めた活動を何という？
- 問11 鎌倉時代に制定された、武士社会の決まりごとや裁判の基準を何という？
- 問12 東大寺南大門などに見られる、鎌倉時代の武士の気風を反映した力強い文化を何という？
- 問13 鎌倉幕府において、将軍から領地の所有権を認められるなどの恩恵を何という？
- 問14 『東方見聞録』の中で、ヨーロッパに紹介された日本の呼び名を何という？
- 問15 1221年に、朝廷の権力を取り戻すために鎌倉幕府を倒そうと挙兵した人物は誰？
- 問16 平氏が滅亡し、武士が政治の実権を握るきっかけとなった出来事が起きたのは西暦何年？
- 問17 鎌倉幕府において、将軍が御家人の所領を保護・保証することを何という？
- 問18 浄土真宗において、武士以外に強く支持された、当時の生産活動を担う人々を何という？
- 問19 後鳥羽上皇が幕府の倒幕を企てたが、幕府側が勝利し、朝廷に対する幕府の優位が確立した出来事が起こったのは何年？
- 問20 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問21 『東方見聞録』を記した、モンゴル帝国のフビライ＝ハンのもとを訪れたイタリアの旅行家は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 悪党	悪党は、荘園領主や幕府の統制を無視して、力づくで年貢の徴収を妨害したり、所領をめぐる紛争を起こしたりした武装集団です。武士だけでなく、土豪や農民が含まれることもありました。
問2	答え 随筆	随筆は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。特に『方丈記』は鎌倉時代の不安定な世相を、『枕草子』は平安時代の貴族の美意識を、『徒然草』は鎌倉時代末期の洗練された価値観をそれぞれ鮮やかに描き出しています。
問3	答え 一遍	一遍は全国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行うことで、阿弥陀仏の教えを広めました。彼が始めた宗派は時宗と呼ばれ、身分に関係なく多くの民衆から支持を集めました。
問4	答え 承元の法難	1207年、法然の門弟が起こしたトラブルをきっかけに、旧仏教勢力は朝廷に働きかけました。その結果、法然は承元の法難によって讃岐（現在の香川県）へ流罪となり、多くの弟子も処分されました。これは、新しい教えと古い既得権益側の間の対立が深刻化した事件でした。
問5	答え 貴族	貴族は、朝廷の官職に就くことで権力を持ち、経済基盤として荘園を経営していました。鎌倉時代に入り、武士による政治（幕府）が成立すると、貴族の政治的影響力は徐々に低下していきましたが、京都を中心に高度な文化を保持し続けました。
問6	答え 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問7	答え 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問8	答え 平家物語	『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。
問9	答え 鎌倉幕府	鎌倉幕府の政治は、将軍が御家人に対し領地を保証し、御家人がそれに応じて軍事的奉公をするという「御恩と奉公」を骨子としています。土地が何よりも重要視された時代であり、この仕組みが全国的な支配体制を支える根幹でした。御成敗式目などの法整備も行われ、武士社会の秩序が保たれました。
問10	答え 踊念仏	一遍が始めた「踊念仏」は、太鼓を打ち鳴らし、念仏を唱えながら踊ることで、深い宗教体験を得ようとするものです。この活動は非常にエネルギーで視覚的にも人々の注目を集め、武士から農民、商工業者まで幅広い階層の人々を熱狂的に惹きつけました。
問11	答え 武士社会の慣習	それまで武士の間で行われてきた「武士社会の慣習」を基に、裁判の基準が文章化されました。それ以前の京都の朝廷が用いていた律令は、貴族社会には適していても、土地に執着する武士の日常的な紛争を解決するには複雑すぎました。そのため、公平で分かりやすいルールが求められたのです。
問12	答え 鎌倉文化	鎌倉文化は、質実剛健を重んじる武士の性格が反映され、力強く写実的な表現が特徴です。彫刻では運慶・快慶による力強い仏像が作られ、文学では『平家物語』のような戦いの様子を描いた物語が好まれました。建築でも、東大寺南大門に代表されるような、堂々とした様式が取り入れられました。
問13	答え 御恩	御恩とは、将軍が御家人に対して行う経済的・地位的な保護のことです。主なものとして、先祖伝来の土地の所有を認める「本領安堵」や、手柄を立てた者への「新恩給与」がありました。これに対し、御家人は軍役（戦いの際の兵士としての務め）や京都・鎌倉の警備などの奉公を果たす必要がありました。
問14	答え 黄金の国ジバング	マルコ・ポーロは『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジバング」として紹介しました。実際には訪れていませんでしたが、その記述は当時の地理的知識を飛躍的に広げ、日本が大量の金を産出する国であるという強い印象を与えました。
問15	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、倒幕を試みました。しかし、北条政子の演説により結束を強めた幕府軍の反撃にあい、上皇側は敗北しました。
問16	答え 1185年	1185年は、壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡した年です。この年、源頼朝は朝廷から守護・地頭の設置権を認めさせ、全国的な支配力を強めました。これにより、貴族中心の政治から、武士が政治の主導権を握る中世社会への移行が決定づけられました。
問17	答え 所領安堵	所領安堵とは、御家人が持つ土地の支配権を将軍が保証する仕組みです。御家人は、将軍からこの御恩を受ける代わりに、戦場での戦いや京都の警備といった軍役に果たす義務がありました。この「御恩と奉公」の精神が、幕府の強力な支配体制を支える土台となりました。
問18	答え 農民	親鸞の教えは、難しい経典を必要としないため、読み書きが苦手な農民にも広く浸透しました。当時の厳しい生活環境の中で、平等に救われるという教えは、人々の大きな支えとなりました。これにより、各地で門徒と呼ばれる信者の集団が形成され、大きな勢力となりました。
問19	答え 1221年	1221年、後鳥羽上皇が北条義時追討の院宣を出して挙兵しました。これに対し、幕府は北条政子の演説などで御家人を団結させ、迅速に京都へ兵を進めて鎮圧しました。これを承久の乱といいます。
問20	答え 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問21	答え マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを通過して元の都（大都）へ渡り、フビライ=ハンに仕えました。帰国後に投獄された際、同房の人物に語り聞かせたアジアの記録が『東方見聞録』としてまとめられました。